

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0175700244 | | |
| 法人名 | 医療法人 緑光会 野宮病院 | | |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホーム ふれ愛の家 | | |
| 所在地 | 岩見沢市5条東18丁目29番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年12月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年3月1日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700244-00&PrefCd=01&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------|
| 評価機関名 | 合同会社 mocal |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501 |
| 訪問調査日 | 平成 31 年 2 月 7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>利用者様の個々の力量を理解し、生活する上での仕事をする事で役割を持ち、生きがいのある生活が出来るよう努めている</p> <p>毎日の仕事、自分の趣味、自分の好きなことが出来る環境を作り、一緒に食事や行事に参加してみんな笑顔で楽しく送れるよう努めています</p> <p>利用者の御家族がいつでも会いに来れる環境を作り、御一緒に食事や行事に参加して、みんな笑顔で楽しく送れるよう努めています</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|----------|
| <p> </p> |
|----------|

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| 項目 | 取組の成果 | | 項目 | 取組の成果 | |
|--|-----------------------|--|---|-----------------------|---|
| | ↓該当するものに○印 | | | ↓該当するものに○印 | |
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) | <input type="radio"/> | 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 個々の生活習慣を崩さず、その人らしい生活に努める事が出来たと思われる 花壇作り、家庭菜園を行い、暮らしの中に自然とふれあいながら生活する事が出来た 地域との交流はあまり作れなかった | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣へは散歩や買い物に出掛けるが、地域の方とのふれあいはあまりなかった 今後の課題と思われる | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて、町内会長様に毎回参加して頂き運営状況を報告、施設行事にも積極的に参加して頂くように努めている | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 2カ月に1回運営推進会議を開催、状況報告、インシデント、アクシデントに関する報告、活動報告、質疑を行い意見交換してサービス向上に努めている | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 施設の行事に参加して頂き、運営推進会議にも出席して頂き、施設での取り組み、状況を把握して頂けるように努めている | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会設立、グループホームでの身体拘束とはどのような事かと新めて講習会に積極的に参加し、ホームにて勉強会を開催、身体拘束についての講師を招き講習会開講、身体拘束への知識を高めこれからも身体拘束のないケアに取り組んでいく | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部の虐待防止勉強に参加 誤解を受けるような言動がないように心がけている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度の対象入居者はいない 職員は学ぶ機会がなかった | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約については事務長、ケアマネが説明を行っている 見学、面会時、話し合いの時間を多く持ち、理解納得を図っている | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱は設置してあるが、活用されていない 運営推進会議ではご家族から意見、要望を頂いている それらを踏まえ運営に反映させている | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者ミーティングと担当者会議でそれぞれの職員が活発に発案、相談を行っており、管理者も協力体制を整えている 各行事に関しても職員が積極的に喜んでいただける内容を考えている | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 母体法人の就業規則に準じている 利用者の生活を継続する為の勤務態勢を整えています | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内での研修には積極的に参加している 研修会へも参加し報告会をおこなっている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | ネットワークづくりや相互訪問には至れていない | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者様がリラックスして話しやすい雰囲気を作り、よく話をして不安があれば解消できるようにしている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に施設を説明しながら見学して頂き、家族から入居に至るまでの経過を伺い、できる限り本人、家族の要望に沿えるよう努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族から生活歴、現状の生活状況を伺い、本人の様子を見ながらアセスメント作成、本人、家族が望む暮らしに近づけるよう個別支援を行っている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事や行事の挨拶等、出来る事は積極的にお願ひしたり、一緒に行ったり、全員が役割のある暮らしをしている 自信を持つ事にもつながり、分担することでお互い助かり、感謝の言葉を伝えあっている | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 各行事に参加を呼びかけ、職員、家族間の交流を図っている 先の胆振東部地震では、大変な中ランタンを持ってかけつけてくれたり、いつもの取り組みの成果が現れた | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力を得て、出来る限り外出し、外部環境に接する機会を持って頂いている | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士でのコミュニケーションの場を常に提供している | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 現在状況が当てはまる事例がない、転所がある場合、フェースシートを活用し、暮らしの情報を伝える支援を行う | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 生活歴を注視し、コミュニケーションを取りながら何気ない会話や表情等から、思いや意向を把握出来るよう努めている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族に暮らし情報(家族・生活史・暮らしシート)を入居前に記入して頂き、面談時や入居後に補足の情報を収集しケアプランに反映できるよう努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の様子を観察し、1人1人の体調や持っている能力(出来る事、出来ない事の見極め)の把握に努めている | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向に沿って現状のアセスメントをしっかり行い、ケアチームとも話し合い、本人が馴染んでいた生活に近づけるようケアプランを作成している | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の介護日誌に日々の生活の様子を記録、支援経過記録に診療情報や家族の支援情報等を記録しケアチームで情報を共有、ケアプランに反映している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 1人1人のニーズに対応出来るよう日々の情報伝達及び、担当者会議での意見交換、家族の協力の下で支援の幅が広がっている | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 保育所の園児や、友人知人のボランティアが行ってくれるイベントを楽しまれているが、もっと地域資源を活用出来るよう努めたい | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者全員が運営母体の病院の医師を主治医として2週に1度の定期受診を受けている 又在宅時代の専門の主治医の定期受診も家族の協力で継続されている | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の体調の変化があった場合は、日中夜間を問わず経営母体の病院の医師や看護師が対応してくれ、週に1度看護部長が利用者の様子や体調を診てくれる 施設長に看護資格があり医療との連携を適切に行ってくれている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院する際は、治療や療養生活に必要な情報を本人や家族の承諾を得て提供し、退院の際も利用者が今後安心して生活できるよう、不足ない情報が得られるよう連携に努めている | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合いを行い、施設で出来ることを十分に説明し時には医師を交えての説明を行い、家族の間で十分に検討して頂き方針を共有している 体調に応じて繰り返し話し合いを行い、本人・家族の意向に沿えるよう支援している | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故発生時は経営母体の病院の医師・看護師が早急に対応してくれている | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行い、地震や火災時の利用者の避難方法は全職員が身につけているが地域との協力体制は構築できていない | | |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 1人1人が個室で馴染みの家具等を置きプライバシーが保たれている、又日々の生活の様子や会話を通じて個性を見出し、その人に合った対応を心掛けている | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来る限り本人の思いを叶えるように努めている 入居者様の表情、しぐさから意思をくみ取るよう心掛けている 自由に自己決定できる環境作りに努めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | その日の体調や気分で食事の時間、居室で休む時間を本人のペースで過ごせるよう支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の洗面、髭剃りの声掛けをし、身だしなみやお洒落ができるよう努めている 女性の入居者様にタクティールケア、マニキュアをして楽しめるよう支援している | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生会等、入居者様の好みを取り入れている調理も1人1人の力を活かせるよう出来ることを把握して準備、片付けを行っている | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体重管理や水分制限されている入居者様もいるので個人に見合った量を摂取出来るよう支援している 詰め込むように食事する方には小さく刻んで摂取して頂いている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声掛けを行っている 介助で行う時もある 仕上げに舌ブラシを使用している | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 入居者様の排泄パターンに合わせ時間を見ての声掛け、仕草等でトイレ誘導を行っている | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品の摂取や機材庫まで物を取りに行く等身体を動かす働きかけを行っている 下剤を利用した便秘の対応は担当医へ報告、相談して下剤の調整を行っている | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている | 入浴日は決まっているが変更して入ることもある足の浮腫みのある入居者様の足浴も行っている | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様のその日の体調や表情を見て、テレビを見たりレクや運動の働きかけを行っているが、自分の休みたい時に休んでもらっている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬は手渡しにて服用、飲み終えるまで見守り確認している 薬情報は個別ファイルに保管、変更の場合支援経過記録、スタッフ間で口頭での送り把握できるようにしている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者様1人1人役割を持って食事作り、後片付け、ゴミ投げ、テーブル拭きをして頂いている レクはカラオケやビンゴゲーム、塗り絵、トランプ等を行っている | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者様の家を見に行ったり、道の駅へ行き食事、買い物をした スタッフの人数の関係で頻繁に外出支援は行えないが、これからも支援する予定 ご家族にも協力を得て外出支援を行っている | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望にて所持されている方は少ないが自由に公衆電話を利用されたり、日々使うことがなくても小銭を所持することで安心されている方もおり家族と相談しながら個別に対応している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | いつでも自由に電話ができるようにしている事で定期的に家族に連絡し、又家族からの取次ぎなどができるようにしている | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用のスペースには入居者様の作った作品の展示や季節ごとの装飾を行ったり、居間には光が入り明るくいつでも外の景色が楽しめる四季を感じられるようになっている | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールから離れたロビーにタイプの違ったテーブルや椅子を置くことで1人でゆったりと大きなソファで過ごされる方や他ユニットの交流の場にもなっている | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れたもの、馴染みの物はそのまま持ってきて頂き、家族写真などを飾ることで落ち着いた環境で生活できるようにしている | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 生活に障害となるものは置かず、トイレ・洗面所・浴室などの標識、手すりや呼び出しボタンの設置でトイレ・入浴時など安全に活動できるように工夫している | | |